

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月29日

【評価実施概要】

事業所番号	2371501038		
法人名	旭日産業株式会社		
事業所名	グループホーム あさひ名東		
所在地	名古屋市名東区勢子坊2-413 (電話) 052-704-5438		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年7月20日	評価確定日	平成19年8月28日

【情報提供票より】(平成19年7月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 12人, 非常勤 9人, 常勤換算	7.15人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,500 円	その他の経費(月額)	30,000 円
敷金	有() 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 450 円
	夕食	600 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成19年7月2日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	4名	要介護2	2名
要介護3	4名	要介護4	5名
要介護5	2名	要支援2	1名
年齢	平均 83.75 歳	最低 77 歳	最高 97 歳
協力医療機関名	医療法人桂名会 木村病院		

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは新興住宅の中に位置している。玄関周りには季節の花が並んでおり、庭には、畑や小さな池があり、自然に触れる機会を大切にしている。池には、2世代の金魚がたくさん泳いでおり、蓮の花が咲いている。畑では、季節の野菜が収穫され、食卓に並ぶのを入居者は楽しみにしている。近くの保育園の散歩コースになっており、ホームからも保育園に立ち寄って、交流を図っている。一泊、日帰り旅行を春と秋に実施して入居者はもとより、家族や職員の大きな楽しみ行事となっている。18時30分~20時まで、ホールで音楽をかけ、歌ったり聞いたりし、夕暮れの不安解消により効果をあげている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果については、全職員に説明している。評価結果に甘んずることなく、評価は自己に対する羅針盤と考え、前向きに考えている。「スタッフ教育ツール」を使用して職員教育に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価をすることで、現在行っていることを改めて考える。また、マンネリ化防止になり、基本をそれぞれの立場で考える機会となり、全職員で考えることができた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議のメンバーには、積極的に参加を呼びかけ、協力医療機関の医師が2名、自治会長、家族代表、職員が出席している。ホームの現状や外部評価の結果についても報告をしている。自治会長を窓口地域との交流があり、ボランティアの協力や人材確保に協力を得ている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会時に、日常の様子や健康状態を積極的に話をして、コミュニケーションを図り、家族の意見や希望を聴取している。運営推進会議で改善点の報告をして、運営へ反映させる取り組みをしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、地域の清掃活動に参加している。自治会の回覧板を活用したり、チラシを配布してホームの行事を案内している。「ど真中祭り」に参加した子ども達が、ホームの敬老会で踊りを披露したり、学習生涯センターの詩吟サークルに参加している。また、「あさひ名東」の専用コーナーがあり、作品の展示もしている。

福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの機能を十分に発揮できる理念として「生活習慣に合わせた援助」「自分らしい自然体の生活を営む支援」を柱としている。運営推進会議を開催し、自治会長を通してボランティアの紹介や人材の支援、家庭介護教室開催のアドバイス等を受けている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各フロアに理念が掲示しており、誰もが目に付きやすく日々の支援に活かしている。月1回の全体会議で周知を図り、連絡ノートを活用したり、プリント配布にて欠席者への共有に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域の清掃活動に参加している。自治会の回覧板を活用したり、チラシを配布してホームの行事を案内している。「ど真中祭り」に参加した子ども達が、ホームの敬老会で踊りを披露したり、学習生涯センターの詩吟のサークルに参加している。また、「あさひ名東」の専用コーナーがあり、作品の展示もしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	マンネリ化を防止したいと評価を前向きに考えている。自己評価だけでなく、外からの見方もあるんだと職員全員で考え、話し合っって評価項目を羅針盤としている。前年度の評価結果に甘んずることなく、今一度、振り返って改善できることはないか全職員で取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	2カ月に1回開催している運営推進会議には、協力医や自治会長、入居者家族の参加により、ホームの現状や困っていることを報告してサービス向上に協力を得ている。自治会長を窓口にした協力体制があり、会議では様々な立場から意見交換があり、外部評価結果も報告している。		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	名東区役所の窓口へは、介護相談員の受け入れを申し込んだり、ホームの見学会やホーム内での敬老会を案内して参加や協力の働きかけをしている。名古屋市グループホーム連絡協議会や名古屋市介護サービス事業者連絡研究会（名介研）を通して、情報提供をしており助言や指導をもらっている。		
4. 理念を实践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	3カ月に1回ホーム便りを発行し、家族へ送付している。毎月1回請求書と一緒に旅行や行事、日常の暮らしぶりを写真に撮り送付している。面会時には、日常の様子や健康状態を報告し、家族とのコミュニケーションを図っている。電話で報告することもあり、入居者や家族の状況により、個々に合わせた報告方法を実施している。		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族の意見は、面会時に立ち話程度であり、その場で解決するよう説明している。苦情については、書面にして対応しているが、大きな問題は発生していない。		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	ホーム開設時からの職員が施設長と協力して入居者へのダメージを最小限に配慮している。法人内の異動は、極少にしているが、やむを得ない時には、十分に配慮して、馴染みの職員と共に勤務体制を組んでいる。施設長は職員とコミュニケーションを図り、「明るく、楽しく、感動的に」を大切に指導して離職を最小限に抑える努力をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	専門職への資格取得について、力を入れており雇用条件にも反映されるシステムを取り入れている。ホーム内での勉強会は、看護師が医療について指導している。施設長は外部研修へ積極的に参加している。救急救命の講習には、職員が参加しており、研修資料を全職員に配布して自主的学びを大切にしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市グループホーム連絡協議会の研修が2カ月に1回開催され、参加している。家族からの相談事やホームの問題点を資料に話し合い、お互いのホームに持ち帰り参考にしたり、職員へ報告することで他グループホームの質を学び「あさひ名東」への還元を考えている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	色々なグループホームを見学する大切さを、始めに話しをしている。空室があれば宿泊体験が可能であり、何度か見学を繰り返し、馴染んでもらう体制をとっている。家族の宿泊や24時間面会が可能であり、本人や家族と話し合い、相談しながら馴染める工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームの一員として大きな存在にある愛犬の世話をしたり、料理の味付けをしたり、職員が教えてもらうことが多くある。入居者と職員とはよく話しをしており、身の上話や相談事もある。また、入居者から職員へ労わりや励ましの言葉をかけてもらい、元気をもらうこともある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>帰宅願望の強い方へは、家までドライブをしたり、クリスチャンの方には日曜日に教会へ送迎をしている。喫茶店や外部サークルへの参加の送迎も実施している。一人ひとりの思いをいかに引き出せるか、全職員が入居者に耳を傾け取り組んでいる。入浴担当、散歩担当等、1日の勤務が分かりやすく、希望に添える体制を設けている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員間で「言った、言わない、実施しているつもり」等、曖昧な言動により入居者が不利益を被らないよう施設長がパソコンに入居者各自のデータを入力している。その時点で必要な支援や介護を全職員で検討し、評価を大切に介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>1週間に1回、カンファレンスを開催している。居室担当制を取り入れ、入居者毎の流れを把握し、必要に応じて見直しをしている。本人や家族の希望を主に施設長と話し合い、現状に即した介護計画の見直しを実施している。入居者の現状と介護計画を比べ、情報確認をしながら改善に向けての介護計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>受診、外出、宿泊体験等、地域へ開放する考えで柔軟にホームを位置づけている。今後、新規事業として、「共用型デイサービス」の計画を持っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族の希望を大切に、かかりつけ医への送迎や情報交換をして、適切な医療支援を実施している。医療連携体制をとっており、入院設備を持っているホームドクターの往診が月に2回ある。職員の看護師とホームドクターとの密なる連携で安心できる医療処置の継続が可能である。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対して指針を入居時に説明して、同意書をもらっている。ホームドクターや看護師の助言をケアに活かし、普段の生活で重度化を遅らせる工夫を実施している。急性期に希望することを本人や家族から聞いて、職員全員で把握する努力をしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に対する基本方針は誰もが見える廊下の壁に掲示してある。プライバシーに関することは、できるだけ居室を利用して話しをしている。排泄については、他人に分からないよう対応することを指導している。入居者の様子を記録する際、記録する場所を検討している。	○	ヘルパー実習生を多く受け入れている現状、排泄の声かけについては、今一度検討し、徹底指導が期待される。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は設けてあるが、一人ひとりのペースに沿って支援をしている。起床や就寝、入浴等、希望に添える努力をしている。朝寝坊の方へは、食事時間の変更、お酒の好きな方へは、ホームドクター、看護師、フードアドバイザーと相談しながら、ノンアルコール発泡酒で支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度や後片付けは入居者の気持ちに添って職員と一緒に関わっている。職員と入居者が同じ物を一緒に食べ、会話をしながら過ごしている。介助方法については、自立を心がけ、一人ひとりに合った支援をしている。一口大や細かくして、箸やスプーン、フォーク等、その人に合った形で提供している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきに各ユニットで入浴を提供している。毎日入浴を希望される方には対応している。一人ひとりの希望やタイミングに合わせた対応をして、入浴を楽しめる工夫をしている。午後から入浴時間、水曜日は休みの日となっているが、入浴以外の楽しみごとを提供している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	年間行事計画を立てて、入居者の楽しみ行事を実施している。習字の得意な方には、献立や行事名を書くことをお願いしている。食事準備や後片付け、掃除、洗濯物たたみ、畑の手入れ、愛犬の世話等、入居者の持てる力を活かした支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、午前と午後に散歩を楽しんで外気を受けている。近くの喫茶店や希望する美容院にも外出支援を実施している。車椅子の方も土いじりが可能で、戸外で過ごす時間を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	犬が外に出てしまうことがあるため、玄関は鍵をかけていることが多いが、少しぐらいの雨でも散歩の支援を実施している。帰宅願望のある方は、個別対応で一緒に外出をして気分転換を図っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>救急救命法は消防署主催の講習会に順番で参加をしている。消火器、避難経路は職員全員が周知している。シートを使った避難訓練を実施して、日頃より心がけている。</p>	○	<p>災害時の備蓄品、水、食料について確保し、保管場所を全職員に周知されることが期待される。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養摂取については、保健所の栄養士に1カ月毎に目標量の見本をいただき、参考にしてホームで献立を作っている。水分摂取は、1日1000～1500ccを目安にして、摂取量をカルテに記録している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関には、入居者が焼いた抹茶茶碗が数個、入居者手作りの敷物の上に飾られている。居間には、レースのカーテンやすだれで、直射日光を避け居心地よく過ごせる工夫をしている。食卓テーブル、ソファと準備され自由に座っている入居者の姿が見られた。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室には、使い慣れたタンスやソファが置いてある。寝具も馴染みのベッドや布団を使用し、安らかな睡眠確保を促している。家族の写真や仏壇を持ち込まれている方もあり、落ち着いた雰囲気のある部屋になっている。ぬり絵や手入れのされた植物の鉢植えが飾ってあり、居心地のよい居室づくりがされている。</p>		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。